

でんち

社団法人 電池工業会

BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011

東京都港区芝公園三丁目5番8号

機械振興会館内

電話 (03) 3434-0261 (代)

ホームページ <http://www.baj.or.jp/>

ご意見・お問い合わせ <http://www.baj.or.jp/contact/>

発行人 中谷謙助

平成22年1月1日



年頭のご挨拶

社団法人 電池工業会

会長 本間 充

新年あけましておめでとうございます。
平成22年の新春を迎えるにあたり、
一言ご挨拶を申し上げます。

日本国内は、昨夏の衆議院選挙の結果、民主党の鳩山政権が誕生するという劇的な変化がございました。以降、政権の取組みの1つとして実施された政府関連事業の事業仕分けでは、賛否両論ございましたが、誰もが新政権誕生の変化を感じられた事と思います。さて、経済に目を移しますと、昨年前半は、一昨年秋のリーマンショック以降、金融を始め、世界中の製造、流通、サービスなどあらゆる業界が、その影響を大きく受け、低迷を続けました。その後、各国政府の協調した景気刺激策の下支えもあり、昨



年秋には、「日本の景気動向指数は、上方への局面変化を示している」との内閣府の基調判断も示されました。しかし、まだまだ、景気の二番底などの懸念も払拭されておらず、加えて、円高も継続しており、電池業界としても今後も予断を許さない状態が継続するものと思われます。

この様な状況下、昨年は、日本の電池業界は、円高、低迷する需要、ウオン安で勢いづく韓国企業と

の価格競争などに対し、電池メーカー各社において、生産性向上、代替材料の探索、様々なコストダウンの取組み等は勿論のこと、販売価格改定の努力も行ってきましたが、収益面への悪影響は、大きなものがありました。これらを反映し、電池売上高は、昨年、月々回復基調にはあったものの、全電池の1月～9月期では、前年比78%/72%(数量/金額ベース)と大きく下落しました。内訳は、一次電池：同79%/86%、小形二次電池：同77%/70%、鉛蓄電池：同78%/67%の結果です。電池業界としては、あらゆる電池を使用する業界において、早期の電池需要の回復が望まれます。

その様な中で、光明の兆しが見えつつあるのが、環境分野です。民主党は、マニフェストに地球温暖化対策としてCO₂等の排出量25%減(1990年比)という大幅な削減目標を明記しており、その対応が、世界中から注目されています。既に、同政権下では、家庭用太陽電池で発電した電力の買取価格を従来のに倍にする制度が、昨年11月よりスタートしており、太陽電池の需要も右肩上がりの傾向が続いています。電池業界としても、太陽電池の普及に伴い、様々なスマートグリッドシステム等の蓄電設備として使用される鉛蓄電池に代表される大型の二次電池の需要も増加するものと期待しています。また、自動車業界におきましてもエコカー減税などの効果もあり、ハイブリット車を中心に工場の稼働率も上昇しており、先行き不透明感はあるものの足元での底打ちが鮮明になったと思われれます。従い、今後益々ハイブリット車やプラグイン・ハイブリット車向けの様々な二次電池の需要も増加するものと期待されます。これらの分野においては、電池も間接的ながらCO₂排出量抑制に大きく貢献できるものと確信しております。

一次電池に関しては、前述のとおり全体では前年比で大きく割込んでいるものの、ゲーム機などの小型機器や高齢化社会を反映した補聴器の需要増により、アルカリボタン電池や空気電池の売上は、前年比2桁以上の伸びを示しています。一方、筒型の電池では、マンガン電池からアルカリマンガン電池への需要シフトが顕著に伺えます。また、煙探知機やスマートグリッドシステムに不可欠な各種メーター類のバックアップ電池などまだまだ成長分野も見込めます。

さて話は変わりますが、2008年11月に電気用品安全法が改正されました。同法施行後、断続的に発生

しておりましたリチウムイオン電池の事故は、減っているとの情報をいただいております。今後は、さらに安全性を高めるため、2011年度予定の第二ステップの施行に向けて工業会として準備を進めてまいります。一方、昨今、海外での第三者認証を伴う電池規格や規制の乱立は、事業運営上の手かせ足かせとなり、収益も圧迫することより、電池業界として非常に懸念しております。今後、これらの乱立を極力阻止し、同時に安全性向上も図る為、IEC国際規格に収束させる方向で強力に推進していきたいと考えております。ご協力のほどお願いいたします。

環境問題への取組みに関しましては、これまで、電池工業会では、小形二次電池と鉛蓄電池に関し、それぞれ社団法人JBRC及びSBRAを支援する形で取組んでまいりました。これらの電池に加え昨年4月からは、電池工業会内に「ボタン電池回収推進センター」を設置し、本格的に回収を開始いたしました。一方、世界的な見地からは、環境への配慮が一段と厳しさを増しており、EUを始めとしてカナダ、台湾など全電池回収義務が、グローバルに拡大しており、会員各社とも、事業継続のため、これらの規制法への対応が必須となっております。

電池工業会の広報活動では、昨年は、バッテリー賞の開催や新聞での電池の正しい使い方などの情宣活動を行いました。また、未来の科学者を育てるべく、東京、大阪での電池フェスタの開催を始め、全国の科学館など18か所以上で「こども手作り乾電池教室」を開催しました。この活動は、延べ2,600名以上の参加があり、教育分野における活動として非常に好評で、今後も継続していく所存です。

社会における電池の役割が大きくなるに連れ、電池業界は、市場や社会から、電池に対して、性能や価格面だけでなく、安全性のさらなる向上や環境配慮設計など様々なご要望に応える事が求められる様になって来ました。電池工業会では、会員各社一丸となり、今後も全力を上げて新しい課題に挑戦し、世界最先端の電池技術を更に進化させ、社会の期待に応えられる様、努力していく所存です。今後とも、関係省庁ならびに関係各位のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

最後に、会員会社様の益々のご発展と、皆様方のご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。我が国経済は、設備投資や個人消費の水準、雇用情勢は未だ厳しく、また急速な円高は輸出産業にとって大きな打撃となっているなど、依然厳しい状況にあります。

このような状況にかんがみ、昨年12月、エコポイント制度の延長や、LEDの普及促進、低炭素型産業の国内立地支援によるグリーン雇用の創出などを盛り込んだ「明日の安心と成長のための緊急経済対策」をまとめました。政府一丸となって、経済の力強い回復に向けて全力で取り組んでまいります。

緊急を要する経済対策に迅速に取り組む一方、我が国が持つ強みを最大限生かし、経済を新たな成長軌道に乗せるための戦略を確立することも極めて重要です。我が国は、地球温暖化を始めとする環境問題、急速に進行する少子高齢化・人口減少など、困難な課題に世界で最も早く直面しています。しかし、「疾風に勁草を知る」というように、いまこそ我が国の真価が問われているのです。これらの課題をむしろチャンスと捉え、我が国の力強い成長を実現するための取組を、いまこそスタートさせなければなりません。

その際、エレクトロニクス・サービス産業の果たすべき役割は極めて大きいものと考えております。経済社会活動の隅々まで基盤として浸透している「IT」と、実際に私達の暮らしを豊かに、快適にする「サービス」双方の視点を生かし、我が国のさらなる成長に貢献してまいります。

こうした視点は、昨年骨格を取りまとめた新たな成長戦略においても、しっかりと位置づけられています。我が国の強みである「世界屈指の製品群と社会システム、コンテンツ」の持つ大きな可能性を生かし、豊かな生活と低炭素社会を同時に実現します。

エレクトロニクス・IT政策につきましては、ITの高度制御によって暮らしの低炭素化を実現する「スマートコミュニティ」や、LED、蓄電池、車載システム制御技術などの最先端技術の研究開発を強力に推進し、低炭素社会の実現に貢献してまいります。

また、クラウドコンピューティングの推進と、それを活用した新たなサービスを創出するため、データセンタの高信頼化・低炭素化を始めとする環境整備の取組を進めてまいります。

そして、これらの取組を統合した我が国発の課題解決

型システムを、本年我が国が議長国となるAPECの場などの活用によって、アジアを始めとする世界展開を図り、地球規模の課題解決に大きく貢献してまいります。

さらに、ITを活用した地域・中小企業の活性化に向けた取組や、電子政府の推進、情報システムの信頼性・セキュリティの確保の取組も、着実に進めてまいります。

サービス政策につきましては、サービス産業が我が国経済の約7割を占めるとともに、雇用創出効果が大きい重要な内需型成長産業であることから、中小企業向けの経営改善ツール等の整備・普及を進めるなどにより、サービス産業における生産性の向上やイノベーションを促進してまいります。

また、メディカル・ツーリズムの推進など我が国のサービス市場に外需を積極的に取り込んでまいります。

さらに、ますます高齢化が進む我が国において、医療・健康関連産業の活性化や医療分野の基盤強化を実現する方策について検討するために、昨年9月より「医療産業研究会」を立ち上げました。ここでの議論なども踏まえ、医療・健康関連サービスが相互に連携した新たな総合産業の創出や医療・福祉機器の開発に取り組んでまいります。

そして、海外での人気が高く、成長余地の大きい我が国のコンテンツ産業を一層振興するために、世界最大のコンテンツ国際見本市「JAPAN国際コンテンツフェスティバル(コ・フェスタ)」の開催や、クリエイターが創造性に見合った対価を十分に得られる環境の整備、産業の裾野を支える人材の育成を通じて、コンテンツ産業の競争力の源泉である創造活動を支援します。

これまで申し述べた政策を着実に実行し、国民が豊かさや安心を実感できる社会を目指し、本年も全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様方の御多幸と一層の御活躍を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。



『2009プロ野球最優秀バッテリー賞』表彰式開催

『2009プロ野球最優秀バッテリー賞』（電池工業会とスポーツニッポン新聞社の共催）の表彰式が、12月5日 有明コロシアムで開催されました。

少年野球チームを招いて行う表彰式も今回で4回目となり、表彰式および野球教室共に定着し、式典はすべてスムーズに進行しました。招待された子どもたちも、直接プロ野球の選手と接することができ、また野球教室では野球の指導を受け、電池〇×クイズでは正解者には選手のサイン入りグッズが当たるなど楽しいひと時を過ごすことができました。

2009年のプロ野球最優秀バッテリー賞は、セ・リーグからは巨人のディッキー・ゴンザレス投手と阿部慎之助投手、パ・リーグからは西武の涌井秀章投手と銀仁朗投手、に贈られました。

表彰式には西武の涌井秀章投手と銀仁朗投手が出席し、本間充 電池工業会会長から賞金100万円と、副賞のカーバッテリー、アルカリ乾電池一年分が、山本進 スポーツニッポン新聞社社長から表彰盾がそれぞれ贈られました。また、表彰式では、張本氏、有藤氏、東尾氏からの各選手受賞理由の説明がありました。また、この後子どもたちからの質問コーナーがあるなど、楽しい内容となりました。

表彰式に引き続き、公募によって招待された少年野球9チーム（約129名）は、受賞選手との“記念撮影”、

クイズを勝ち抜いて受賞選手のサインボールやサイン色紙がもらえる“でんち〇×クイズ”、元プロ野球の選手から直接指導してもらえる“野球教室”と盛りだくさんの内容をそれぞれが楽しみました。お目当ての選手と接することができた子どもや、思い通りにクイズに答えられた子ども等、招待された子どもたちは感激と楽しさをからだ全体で表現していました。

事前にハガキ等で誰が「プロ野球最優秀バッテリー」に選ばれるかを当てるクイズには、3,708通の応募をいただきました。後日の抽選の結果、神谷奎吾様、金丸佳加様、小山田勉様に10万円分の旅行券を、また渡辺新一様等には、4選手のオリジナルデザインのクオカード(1,000円分)を贈らせていただきました。



第53回小形二次電池部会を開催

平成21年12月10日、海谷部会長（パナソニック株）を議長に、小形二次電池部会を開催した。

冒頭に部会長および専務理事より挨拶があり、引き続き各委員会より活動報告が行われた。

1. 海谷部会長挨拶

昨年に引き続き、規格、環境、安全関連の業務は多い。さらに、エネルギーと環境の問題を複合させた観点から、電池が取り上げられることが増えてきており、枠組みが一つ加わった感がある。このような状況下での対応には苦勞すると思うが、小形二次電池部会の各委員会の活動をお願いします。

2. 中谷専務理事挨拶

電池の生産数は回復しつつあるが、まだ低空飛行を続けている状況であり、さらなる伸長を期待している。試行が始まっている小形二次電池のカーボンフットプリントや次世代自動車用電池の動きが活発化している。

3. 委員会報告

(1) 小形二次電池技術委員会 (小西委員長)

- ・ 評価機関へのリチウムイオン電池試験方法のレクチャーを行った。
- ・ 電気用品安全法の見直しに参加し検討を始めた。当面はPSEワーキングで対応していく。
- ・ リチウム2次電池分科会では、JISおよびIECの該当規格の見直し等実施している。
- ・ ニカド・ニッケル水素分科会では、IEC61951-1、IEC61651-2の対応とJIS C 8705の平成22年度公募に応募したことの報告があった。
- ・ 据置リチウムイオン分科会では、IEC61960用資料の検討を行った。
- ・ PSEワーキングでは、電安法の内容の検討および見直しを行った。



- ・ IEC SC21A-WG2のコンベナーに高尾氏が、高橋氏の後任のエキスパートに島氏がそれぞれ選ばれた。

(2) LIB安全性技術委員会 (世界委員長)

- ・ 安全性試験方法について、内容の検討を行った。

(3) 国際電池規格委員会 (古川委員長)

- ・ IEC62133（小形二次安全規格）の改訂について審議中。2011年春ごろに規格発行で進んでいる。
- ・ IEC62368-1（AV,IT,通信機器本体の安全規格）については、規格化で動いている。既に可決されたので2010年春ごろには発行予定。
- ・ IEC SC21A-WG5での大形リチウム2次電池（自動車用以外）のIEC規格化は現在検討中。次期コンベナーの就任待ち。

(4) 国際電池輸送委員会 (張委員長)

- ・ IMO会議では、2005年海上輸送事故の報告書の説明があった。また、VOHMAより2009年5月に起きた事故などの報告があった。会議ではニッケル水素電池輸送について適応除外項目が決定された。

- ・ ICAO会議では、2011年1月から施行される航空機輸送規則で、リチウムイオン電池ではラベルサイズなどが決められた。
- ・ WRBRF会議は今年10月にローマで開催され、参加し意見交換を行った。
- ・ 国連危険物インフォーマル会議は、11月9日～11日京都国際会館で実施し、電池工業会がホストを務めた。

(5) 業務委員会 (森委員長)

- ・ ニカド電池：世界不況、環境意識の高まりから出荷数量は大きく減少した。
- ・ ニッケル水素電池：需要低迷は下げ止まり回復基調だが09年は大幅前年割れになった。
- ・ リチウムイオン電池：9月は11か月ぶりの回復がみられるが、通年では前年比81%と大幅ダウン。
- ・ 小形制御弁式鉛蓄電池：通年で前年比81%と低調に推移した。

(6) 広報委員会 (高尾委員長)

- ・ 電池の日の行事として、11月7日（土）日本科学未来館で「でんちフェスタ」を開催。約1100名の入場者でにぎわった。
- ・ バッテリーの日の行事として、12月5日（土）有明コロシアムで「プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式」を開催。本年度は、涌井一銀仁朗、ゴンザレスー阿部の各バッテリーを表彰した。
- ・ 「電池の正しい使い方PRキャンペーン」を、11月～12月に実施中。また、全国紙を使った同様の「電池くんPRキャンペーン」も合わせて行った。
- ・ 英文のホームページの充実に取り組んでいる。早急な完成を目指す。

(7) 海外環境委員会 (寺島委員長)

- ・ 「世界の電池環境規制の状況」の改訂について審議中。2010年5月改訂版の発行を目指す。

- ・ 来年以降は、一次電池部会および二次電池部会の環境委員会と一緒の活動を目指し、国際環境規制総合委員会（仮称）を設置する。

(8) 工場環境委員会 (菅野委員長)

- ・ ISO1401規格、条例改定、PRTR、省エネおよび行政への対応について委員会として討議した。
- ・ 製錬工場のリチウムイオン電池リサイクル工程の見学を行った。

(9) PL委員会 (小野委員長)

- ・ 使われ方（誤使用）の研究の結果、リチウムイオン電池の注意事項としてホームページに2項目を追加掲載した。「電磁調理器の上に置かない」「膨れた電池を無理やり機器に装着しない」の2項目。
- ・ 一次電池部会および二次電池部会の各PL委員会と合同PL委員会を10月に開催した。

(10) 再資源化委員会 (辛島委員長)

- ・ 識別表示ガイドラインの改訂作業を実施。改訂版は2010年4月頃発行予定。
- ・ リサイクル品について廃棄電池寿命を調査。実態調査を行っている。
- ・ LCAについて、調査および研究を継続中。

4. JBRC報告 (板垣専務理事)

- ・ 本年度4～11月の回収率実績は前年同月比101%。進捗については順調に推移している。
- ・ 今年度の回収拠点増加数は約1700に達しており、目標（1000拠点）を既に大幅に上回っている。
- ・ イベント出展は年度計画11件のうち9件が終了。映画館等でのCM上映、フジテレビ（関東ローカル）の番組提供を行った。

平成21年12月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	4日(金)	臨時理事会	優良従業員表彰者の承認。
	5日(土)	プロ野球最優秀バッテリー賞表彰式	有明コロシアムで開催。涌井一銀仁朗、ゴンザレスー阿部の両バッテリーが表彰された。
	11日(金)	広報ワーキンググループ	ホームページの改訂、見直しを検討した。
	16日(水)	157回講習実施委員会	高知県、神奈川県、茨城県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	17日(木)	広報総合委員会	バッテリー賞実施結果報告、ホームページ改訂検討状況報告、配布用小冊子改訂の検討、等。
二次電池部会	4日(金)	自動車鉛分科会	SBA改正審議、他。
	9日(水)	自動車用電池リサイクル特別委員会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討。
	10日(木)	資材委員会	再生鉛の検討。
	11日(金)	用語分科会	標準化技術審議、他。
	11日(金)	産業用電池委員会	産業用電池のリサイクル他の情報確認。
	16日(水)	電気車分科会	SBA改正審議、他。
	17日(木)	小形分科会	IEC61056改正審議。
	17日(木)	産業用電池技術サービス分科会	SBA G 0605改正審議、他。
	18日(金)	据置分科会	JIS改正審議、他。
21日(月)	臨時二次電池部会	自動車用電池新リサイクル・スキームの検討。	
小形二次電池部会	3日(木)	海外環境委員会	海外環境規制に関しての情報確認。
	4日(金)	LIB安全性技術委員会	内部短絡試験についての検討。
	7日(月)	国際電池規格委員会	IEC62133対応、IEC62368対応審議、他。
	10日(木)	小形二次電池部会	各委員会からの報告と審議。
	11日(金)	リチウム二次分科会	JIS (8711, 8712, 8713)の改訂審議。
	17日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	JIS C 8705 改訂に関する対応検討。
	18日(金)	工場環境委員会	省エネ状況、ISO14001更新審査等の情報交換。
	18日(金)	据置LIB分科会	短絡試験に関して検討。
	21日(月)	国際電池輸送委員会	国連危険物小委員会の報告。
	22日(火)	再資源化委員会	小形充電式電池の識別表示ガイドラインに関する審議。
	24日(木)	業務委員会	11月度販売実績及び動態確認。
一次電池部会	3日(木)	環境対応委員会	冊子「世界の電池環境規制の状況」改訂案の検討。
	11日(金)	PL委員会	器具委員会との合同会議、ボタン電池に関するガイドライン見直し検討。
	11日(金)	器具委員会	PL委員会との合同会議、電池応用機器等の安全に関する意見交換。
	15日(火)	リチウム小委員会(臨時)	輸送規則への新規試験導入について。
	16日(水)	IEC小委員会	IEC60086-3:5CDVへのコメント審議。
	16日(水)	JIS小委員会	JIS C 8515改正審議。
	17日(木)	技術委員会	各小委員会、WGの活動報告と進め方審議。
	18日(金)	一次電池部会	各専門委員会報告、他。

18650サイズで業界最高容量※

3.1Ah高容量リチウムイオン電池を量産

ノートパソコンなどのモバイル機器を長時間駆動

※2009年12月18日現在（当社調べ）

パナソニック株式会社

パナソニック株式会社は、ノートパソコン等で使用されている18650サイズ（直径18mm 高さ65mm）のニッケル系正極を採用した3.1Ah高容量リチウムイオン電池（エネルギー密度675Wh/L）を開発し、本年12月より量産を開始しました。

リチウムイオン電池は、軽量でエネルギー密度が高いという特長があり、ノートパソコンや携帯電話などのモバイル機器の電源として需要が拡大しています。機器の高性能化や高機能化によりさらなる高容量が求められている一方で、異常発熱などを生じさせない高い安全性が必要となります。

当社は、正極と負極の間に絶縁性の金属酸化物からなる耐熱層（HRL：Heat Resistance Layer）という独自の安全技術を開発し、万が一、電池の内部で短絡が発生しても異常に発熱することを抑え、高容量と安全性の両立を実現しています。

当社は、2006年度にニッケル系正極を採用した2.9Ah（エネルギー密度620Wh/L）の高容量リチウムイオン電池を商品化しました。このたび量産を開始した3.1Ah高容量リチウムイオン電池は、ニッケル系正極とHRLの採用をベースに改良を加えることにより、18650サイズで業界最高の高容量※を実現しました。この電池の採用により、ノートパソコンの長時間の駆動が可能になります。また、エネルギー密度が高いことから、使用機器の小型化、軽量化に寄与します。さらに、ニッケル系正極の採用により、実使用での耐久性と充電放置後の容量劣化が小さく保存性に優れています。

当社は、安全性と高容量の両立を追求した高容量リチウムイオン電池の開発を行うとともに、この技術を用いて環境エネルギー用蓄電システムの実用化を進めてまいります。

品番	NCR18650（現行品）	NCR18650A（高容量品）
容量	2.9Ah	3.1Ah
体積エネルギー密度	620Wh/L	675Wh/L
寸法：直径	18.6 +0/-0.7mm	18.6 +0/-0.7mm
寸法：高さ	65.2 +0/-1.0mm	65.2 +0/-1.0mm
質量	約44g	約44.5g
電圧	3.6V	
充電電圧	4.2V	
エネルギー	10.4Wh	11.2Wh

太陽エネルギーをリチウムイオン電池システムに蓄えて走行、電力供給 ソーラー エレクトリック ビークル

三洋電機株式会社

「ソーラー エレクトリック ビークル」は、当社「HIT太陽電池」と「リチウムイオン電池」を搭載したフルEVトラックです。既存のガソリントラックの車体に太陽電池を取り付け、エンジン・鉛電池をモーターとリチウムイオン電池に置き換えてEV化しています。太陽電池で発電したエネルギーを「リチウムイオン電池システム」に蓄電し、走行はもちろん、外部への電力供給が可能です。当社が誇る、創エネ・蓄エネ技術を融合したシンボルカーとして、エコプロダクツ展で初公開します。

なお、今後は、全国各地のイベントや非常時の電力供給車として活躍する予定です。

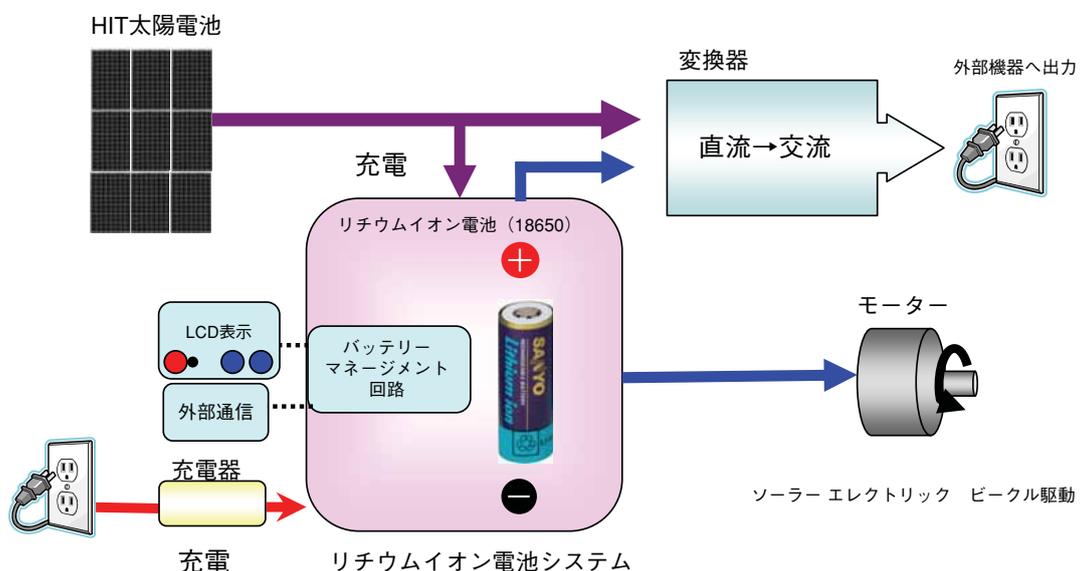


外観イメージ写真

「ソーラー エレクトリック ビークル」概要

- ・ 高効率HIT太陽電池 210W「HIT太陽電池パネル」 9枚（3直列3並列）
太陽電池容量 1.89kW、年間予測発電量 約2,000kWh
- ・ リチウムイオン蓄電システム 円筒形リチウムイオン電池（18650サイズ） 3,510本
（リチウムイオン電池195本のシステムを18ユニット搭載）
出力電圧117～160V、容量25.9kWh
重量約250kg
※AC100Vでの充電も可能
- ・ 充電時間 ソーラー充電で約5日（約16時間）、AC充電で約8時間（完全放電状態からの時間）
- ・ 走行距離 約130km（当社試算による計算値）
- ・ 車体重量 約2t
- ・ 製作協力 学校法人トヨタ東京整備学園 専門学校 トヨタ東京自動車大学校、日本EVクラブ

【創エネ・蓄エネ・活エネのイメージ】



10月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2009年10月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）
 （2009年1月より経済産業省の機械統計で「その他の鉛蓄電池」に「二輪用」が含まれました）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	494,953	61,556	92%	78%	3,996,100	533,289	80%	72%
一次電池計	342,502	11,427	93%	94%	2,688,084	92,521	81%	87%
マンガン乾電池	15,810	504	96%	119%	138,244	3,812	59%	87%
アルカリ乾電池計	127,816	5,776	90%	99%	1,058,246	47,317	88%	98%
単三	75,440	2,717	88%	89%	634,391	23,917	86%	96%
単四	29,394	1,238	84%	96%	256,774	10,670	83%	96%
その他	22,982	1,821	115%	121%	167,081	12,730	105%	103%
酸化銀電池	82,447	1,257	104%	128%	580,172	7,401	81%	84%
リチウム電池	113,075	3,798	93%	82%	870,967	32,710	80%	78%
その他の乾電池	3,354	92	41%	40%	40,455	1,281	43%	38%
二次電池計	152,451	50,129	89%	74%	1,308,016	440,768	78%	70%
鉛電池計	2,568	11,492	89%	75%	22,254	103,186	79%	68%
自動車用	1,879	6,909	93%	75%	15,734	59,393	81%	65%
二輪用	—	—	—	—	—	—	—	—
小形制御弁式	350	830	96%	94%	3,090	7,282	83%	81%
その他の鉛蓄電池	339	3,753	69%	73%	3,430	36,511	70%	72%
アルカリ電池計	50,404	14,569	96%	97%	415,701	106,488	75%	74%
完全密閉式	13,919	1,845	92%	70%	126,124	17,502	61%	53%
ニッケル水素	36,474	12,480	97%	103%	289,473	86,674	83%	80%
その他のアルカリ電池	11	244	100%	94%	104	2,312	91%	90%
リチウムイオン電池	99,479	24,068	85%	65%	870,061	231,094	80%	69%

10月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2009年10月）

単位：数量—千個、金額—百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	268,860	29,348	86%	61%	2,049,373	268,259	73%	66%
一次電池計	135,306	2,537	90%	82%	940,351	19,213	69%	66%
マンガン	579	13	10%	8%	11,110	277	8%	13%
アルカリ	28,269	450	64%	64%	221,450	3,812	67%	72%
酸化銀	56,735	595	122%	98%	335,599	3,823	83%	74%
リチウム	47,409	1,403	94%	89%	355,132	10,767	75%	68%
空気亜鉛	2,049	29	105%	106%	14,415	215	88%	77%
その他の一次	265	48	84%	448%	2,644	319	54%	166%
二次電池計	133,554	26,812	82%	60%	1,109,022	249,046	78%	66%
鉛蓄電池	173	590	86%	53%	1,159	5,476	58%	56%
ニカド	11,034	1,003	94%	71%	97,313	9,180	56%	45%
ニッケル鉄	0	0	—	—	20	4	10%	14%
ニッケル水素	14,358	3,721	79%	72%	124,360	32,572	74%	70%
リチウムイオン	96,294	19,347	78%	58%	804,955	178,919	81%	65%
その他の二次	11,694	2,151	131%	60%	81,215	22,896	94%	84%
全電池合計（輸 入）	91,415	6,756	89%	78%	775,934	60,910	98%	75%
一次電池計	84,913	1,027	91%	69%	715,434	10,299	103%	93%
マンガン	22,547	271	61%	60%	190,876	2,140	95%	86%
アルカリ	52,015	563	108%	97%	441,660	4,987	111%	102%
酸化銀	713	11	129%	103%	4,388	84	109%	110%
リチウム	5,399	120	89%	61%	54,984	2,328	81%	90%
空気亜鉛	1,415	26	590%	195%	8,728	316	139%	134%
その他の一次	2,824	37	235%	16%	14,798	445	95%	54%
二次電池計	6,502	5,728	70%	80%	60,500	50,611	63%	72%
鉛蓄電池	678	1,957	99%	78%	5,675	16,894	89%	67%
ニカド	787	205	71%	59%	8,477	2,419	71%	66%
ニッケル鉄	0	1	13%	118%	56	12	31%	26%
その他の二次	5,037	3,565	67%	83%	46,292	31,286	60%	76%